

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103722
法人名	有限会社 アイファミリー
事業所名	グループホームファミリー
所在地	愛媛県松山市北梅本町甲3264
自己評価作成日	平成25年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日中は、リビングにて風船バレー、囲碁、オセロ、貼絵などをし、過ごしている。静かな住宅街や田畑が近辺に有るため、散歩に出かけても、リラックスした雰囲気でも地域の方とも交流出来ている。施設保有の畑で作られた無農薬野菜を中心にしたメニュー作りをして、食卓を飾っています。おせち料理、節句の料理やおやつなど職員の手作りで、季節感を大切にした食事は、利用者やご家族様にも喜ばれています。野菜の下ごしらえには、職員と利用者一緒にするなど、家庭的な雰囲気の施設です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年2月19日

●職員の入れ替わりもあり、昨年5月より新体制で取り組み始めておられる。退職する職員には、その理由を聞き、事業所では、「時給アップ」や「休憩時間の確保」等、職場環境の整備にも取り組まれている。朝礼時に出された職員からの意見をもとに、毎月の「勉強会」のテーマを決めておられ、「食事の形態」「おむつについて」等、話し合われている。勉強会は、月2回、同じテーマで行なっておられ、職員は必ずどちらかの日に参加することになっている。
●利用者の中には、ご家族と疎遠になっている方もおられるが、事業所からご家族に手紙や電話することで、まずは利用者ご本人の様子を知ってもらえるように支援しておられる。幼なじみの方達と定期的に外食を楽しまれる方には、長時間になると利用者の方も疲れることを考慮して、食事の後はホーム内にある掘りごたつでお茶を楽しんでもらえるよう、事業所から提案し支援されている。絵を描く利用者には、絵の具等必要な用具がなくなる頃に職員が買い物にお誘いして、絵を描くことを続けられるよう支援されている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ファミリー

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏名 高橋 けい子

評価完了日

25年 2月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「初心に立ち帰る」という意味から、以前からの理念「無理をせず、あなたのやりたい事をしましょう、私達がお手伝いしますから」を継続して、目標に掲げている。もっと利用者様個々のケアに臨機応変に対応できるように、職員がチームに分かれ、管理者や計画作成者と蜜に話し合い、実践している。 (外部評価) 理念を各ユニットの居間に掲示して、管理者は、「利用者それぞれの能力を活かし、得意なことが行えるよう支援する」ことを職員と話し合いながら、介護計画にもつなげて、理念の実践に取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域で行われている行事(秋祭りなど)や催し(小野福祉の集いや小野文化祭など)に積極的に参加している。また、近所をよく散歩して、地域の方々と挨拶するよう心がけている。外食に出掛けるときも、近隣の飲食店にて食べるようにしている。 (外部評価) 近所の方は、散歩等を通る畦道の草刈りや消毒を気にかけて行ってくださる。秋祭りには、事業所の庭まで神輿を入れ、地域の方が大勢来られて、利用者は獅子舞を見物されたり、子ども達にお菓子を配ったりされた。子どもがお好きな利用者は、積極的に声をかけるような様子もみられた。3月には、職員が回覧版で見つけた「三世代交流大三島日帰りツアー」に、利用者も地域の方達と一緒に参加する予定になっている。今年度から事業所で「お月見会」を催されており、職員は近所のお宅を訪問して案内されたが、今回は参加いただくことにはつながらなかったようだ。管理者は、地域の方と顔を合わせて挨拶ができたことや、空き家や高齢者のお宅等の事業所周辺のことを知ることにつながり、「またお誘いしたい」と話しておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 今夏、地域の幼稚園や小学校の先生に話をさせていただき、当施設が何かしら協力できないかと打診した。小学生の見学や芋掘り体験を提案して、実施に向けて頑張ってきた。ただスケジュールの調整がなかなか難しかったのと、芋掘り体験当日は天候は不順だったために中止となってしまった。今春は、早めに打診して、地域貢献の一步を踏みたいと思っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 会議となると難しく捉えられるご家族様もいらっしゃるのですが、季節にあったイベントを企画して、より来てもらいやすい雰囲気作りに努めた。実施する度に、参加して下さるご家族が増えてきているのが大変ありがたい。そのため、職員の方から、「次はこんなイベントしてみたい」などと提案が出るようになった。</p> <p>(外部評価) 今年度は、職員の入れ替わり等もあり、会議は年4回の開催となっている。会議と「お月見会」等の行事を併せて行うことを始め、ご家族の参加は増えているが、地域の方や行政の方との日程調整が難しく、参加につながりにくいようだ。会議時には、事業所から、新たな職員体制について報告されたり、「支援事例」や「看取りの事例について」「外部評価結果の説明と今後の取組みについて」等、毎回テーマを決めて報告を行い、参加者と意見交換を行っておられる。</p>	<p>概ね2ヶ月に1回会議を開催できるよう、年間計画を立てて取り組まれてはどうだろうか。又、ご家族はもちろん、地域の方や地域包括の方にも参加いただけるような会議日時や内容の工夫に、今後も努めていかれてほしい。いろいろな人や場と利用者をつなげていくためにも、事業所と地域のネットワーク作りに会議を活かしていかれてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市の介護保険課の方には、疑問点や問題が起こったときは、率直にお聞きして、アドバイスを頂いている。また、当施設に入居されている生活保護利用者様が利用人数の半分を占めるようになったために、福祉事務所の方とも連絡を密接に取り合っている。</p> <p>(外部評価) 生活保護受給者の金銭管理等について、市の担当者話し合いながら支援に取り組まれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(外部評価) 勉強会にて身体拘束を取り上げてからは、職員の関心が上がり、時々職員同士で話し合うこともある。実施に向けて、声かけには気を付けるよう指導している。玄関の施錠は、まだ家族様の意見が得られていないために、現在は施錠している状態。次の運営推進会議で取り上げたい。</p> <p>(自己評価) 玄関を施錠していることについて、ご家族に意見をうかがったところ、「万が一のことがあってはいけないので、このままでもいい。」との要望があり、現在も玄関を施錠している。「外に出たい」利用者の様子がみられた時には、職員が外にお誘いして散歩等できるように支援されている。利用者は、道端の草花を摘んだりして、自らホームに戻られるようだ。車いすを使用する利用者で、ずれ落ち防止や体勢を整えるために安全ベルトを使用している方もいる。市からの連絡や指導内容については、職員で回覧してすべての職員で共有できるよう取り組まれている。</p>	<p>すべての職員が身体拘束についての知識を深める機会を作り、スキルアップをすすめていかれることが望まれる。「認知症であっても、地域の中で自由に暮らし続けられる」ことを支援することが、グループホームの特長でもある。今後さらに、ご家族や地域の方、すべての職員でケアの工夫について話し合い、利用者の立場に立ち、支援の検討を重ねていかれることが期待される。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 介護保険課の方からも指導があり、いつも念頭に置くように職員には伝えている。会計士の方からも、研修費の大幅増を勧められたので、今春からは、職員が外部の研修や講習会に(4月から10月の間に)必ず一つ受けるように経営者から業務命令があったばかり。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者様の一人が、成年後見制度を受けるようになりました。統括部長や管理者は、その方から制度について教えていただきました。担当司法書士の方にお願ひして、ぜひ職員の勉強会で取り上げてみたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所希望の段階から、話し合いの機会や時間をたくさん持ち、不安点や問題点が出るだけ無いようにして、契約していただいている。契約を交わす時は、きちんと説明を行っている。不安や疑問点が入居後に出た場合は、言ってもらいやすい家族様とのコミュニケーション作りにも努めており、あった場合は、迅速に対応させていただいています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見・要望があった場合は、統括部長がお伺ひして迅速に対応しています。すぐにご利用者担当のチームに伝え、早期に検討して、対応しています。(※12月よりケアプランをより利用者様個々に重点を置いて実践できるように、利用者担当職員数名でチームを作り、ケアやその他体調面をサポートさせてもらうようになった。) (外部評価) ご家族へ、「運営に関すること」は統括部長が窓口となり、「ケアへの意見や要望」は管理者が受けることを伝えておられる。ご家族からは、「おむつの使用量」のことや「友人とのおつきあいの仕方」等について相談もあるようだ。事業所の取り組みや利用者の日々の様子をより知っていただけるように、インターネットを使ってブログで情報発信する取り組みも始められた。遠方に住むご家族は、家族全員で楽しみに見てくださっているようだ。又、電話やお手紙に写真を添えて送付し、様子を報告されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 5月より毎朝、朝礼を行い始めた。職員の意見や提案が言いやすくなったためか、いろいろと言ってくれる。それらを恒例の勉強会で取り上げている。また問題点や要望があった場合は、経営者に伝えて、対応している。	
			(外部評価) 職員の入れ替わりもあり、昨年5月より新体制で取り組み始めておられる。退職する職員には、その理由を聞き、事業所では、「時給アップ」や「休憩時間の確保」等、職場環境の整備にも取り組まれている。朝礼時に出された職員からの意見をもとに、毎月の「勉強会」のテーマを決めておられ、「食事の形態」「おむつについて」等、話し合われている。勉強会は、月2回、同じテーマで行なっておられ、職員は必ずどちらかの日に参加することになっている。今後もさらに、内・外部研修に取り組み、職員のスキルアップから事業所のケアの質向上を目指していかれてほしい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 去年一年間で、時給を2回ほど見直して、時給アップをした。有給休暇も使っていただくように、職員に伝え、3人ほど有給を利用した。また、(毎日ではないが)職員が休憩時間を取りやすいようにするために、休憩時間専門(3時間ほど)の代わりに職員を採用した。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 今年は、研修に行った職員が5人でした。自己評価7番にもあるように、ぜひ今春からは職員の研修を推し進めたい。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 小野・久米地区のグループホーム交流会に同業者の方からお誘いを頂き、数回参加させてもらった。一度は、司会者も務めさせてもらった。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 話を聞く時間をたくさん持ち、家族様の協力のもと、信頼関係を築くようにしている。利用者様同士の交流を図るために、職員が間を取り持つて、自然に輪の中に入れるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居希望の見学や面会時から、不安や要望を聞き、丁寧な説明を心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所希望時から、話す機会を沢山持ち、利用者の以前の生活を把握して、サービスに反映できるようにしている。必要な支援が出た場合は、利用者、家族様、統括部長、管理者で話し合い、迅速に対応するように努める。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者が自立した生活が送れるように職員と利用者が共に支えあえるような関係を築き、援助を行えるように心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 体調や心理面の変化時だけでなく、「今日は、こんな事をしたんですよ。」などと日常の話を電話や手紙にて頻繁にお伝えして、家族様からもご意見が伺いやすい関係を構築するように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 子供の頃からのお友達が遊びに来られたり、ご一緒に外出されたりと、その支援を行っている。家族がいない利用者様には、職員がお連れして墓参りに行く。 (外部評価) 利用者の中には、ご家族と疎遠になっている方もおられるが、事業所からご家族に手紙や電話することで、まずは利用者ご本人の様子を知ってもらえるように支援しておられる。幼なじみの方達と定期的に外食を楽しまれる方には、長時間になると利用者の方も疲れることを考慮して、食事の後はホーム内にある掘りごたつでお茶を楽しんでもらえるよう、事業所から提案し支援されている。絵を描く利用者には、絵の具等必要な用具がなくなる頃に職員が買い物にお誘いして、絵を描くことを続けられるよう支援されている。統括部長は、今後さらに利用者個々の希望に応じて、美術館や音楽会にも出かけてみたいと考えておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し、利用者が孤立することがないよう、上手くコミュニケーションが図れない利用者には職員が間に入り、利用者同士の関わりがスムーズに持てるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 特に長期入院により退所された場合は、必要に応じて本人の経過をフォローして、ご家族様や新しく入所施設・入院先の方の相談・支援をしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の個人対応するケアチームを職員数名でつくっているため、日常の生活から本人の要望や意向を聞きやすい環境にしており、ケアプランに反映している。 (外部評価) 職員は、日時や季節を採り入れた会話に心がけておられる。利用者からは、行事の思い出や食習慣等のお話が聞けるようだ。得た情報をもとに、職員は、ふき、わけぎ、つくし、ふきのとう等の季節の食材等を用意して、利用者とは下ごしらえの作業をしながら、さらに、昔の暮らしぶりを探ること等にも取り組まれている。言葉を発するのが難しい利用者には、職員が声かけすると、目をパチパチさせたり、簡単な手振りで意思表示してくれ、職員は、「うれしいこと」「楽しいこと」を共感できるよう接することに心がけておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人やご家族様から生活歴や趣味等をお聞きして、馴染みの生活が日々の生活の中で生かせるように心がけている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者ごとに一日の生活を記録しており、排便や病院の往診・受信内容も記録している。また、職員のケアチームによって、日々の体調や心理変化を早期に見つけ、現状の把握とケアの改善に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者個別に対応するケアチームより、カンファレンスを行い、職員からの意見や提案も介護計画書に反映させている、	
			(外部評価) 衛生面、栄養面等、入居前の身体状態が悪い状態の方の入居の際には、医師の指導や食生活の改善、又、身体の衛生等、介護計画に採り入れて支援した事例がある。そのような支援を続けることで、生活の質も向上して意欲向上につながり、現在は、身なりを整えて外出についても意欲的になられたようだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎月介護計画をもとに、ケアチームで重点的に実施する目標を立て、実践している。個別対応をしているが、他のチームのケアプランや実施目標は、職員間でそれらの記録等を回覧してもらい、情報を共有している。また改善点なども提案し合っている。	
			(外部評価)	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人やご家族様の柔軟な支援に対応するためにも、常日頃からのコミュニケーションや信頼関係の強化を重視している。病院介助が、ご家族様も一番希望されるので、ほとんどの病院介助は施設職員が行っている。	
			(外部評価)	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 秋祭りでは、たくさんの地域住民や子供さんがホームに来られて、神輿や獅子舞を楽しむことができている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 2週間に一度、各利用者のかかりつけ医が往診に来て下さっている。24時間協力医による夜間や急変時の往診が可能である。	
			(外部評価) 利用者やご家族に希望をお聞きして、納得のいく医療機関で診てもらえるよう支援されている。調査訪問日には、皮膚科の医師が定期往診に来られていた。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) パートタイムですが、看護師・准看護師免許を持った介護職員を4人雇用している。介護職兼務ですが、体調変化などや気になった点などを訪問看護師に伝えて、協力医との連携体制を取り、往診をしていただいている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 日頃から入院などが考えられる利用者様には、迅速な入院や緊急搬送に備えて、かかりつけ医と情報交換している。また日頃から病院の地域連携室には訪問したり、電話をしたりと関係づくりに努めています。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) かかりつけ医との指導のもと、重度化した場合や終末期のあり方について、本人、ご家族、施設職員一体になって、話し合いを重ねるようにしている。10月に看取り介護希望をされた1名の時は、施設職員の不安や家族様の看取りに対するご希望など統括部長が24時間対応できる体制作りを作った。医療連携の面では、かかりつけ医の重要性を改めて学んだ。	
			(外部評価) 利用者ご本人の「ここにおりたい。」という希望を踏まえて、10月に、事業所で看取りを支援した事例がある。かかりつけ医、ご家族、親族代表、統括部長で話し合い、看取りの方針を共有し、職員とは、「ご家族の希望」「急変時の対応の仕方」「連絡体制」等の情報を書面にまとめ共有された。統括本部長は、夜勤者の不安軽減のため、夜勤に同行されたり、又、いつでも連絡がつくようにして、職員をサポートされた。日中はご家族がそばで看られ、姪御さんはお好きな食べものを口に運んでくださる等され、職員は利用者のご家族との時間を大切にできるよう支援された。看取りを支援して、職員からは、「もっとしてあげることがあったのではないか。」等の意見もあり、統括部長は職員からの意見を今後の勉強会のテーマにして、より利用者・ご家族の希望に沿った支援につなげていきたいと話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変時や事故時の対応マニュアルを作成している。利用者の急変時に備えて、利用者情報のファイルやマニュアルはすぐ手にして対応できるように目に付く場所に置いている。定期的に勉強会も行なっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の対応マニュアルは職員に周知しており、定期的に訓練を行なっている。10月には、地震の災害を想定して、消防署の協力を得て、避難訓練を行った。 (外部評価) 年に2回、避難訓練を行っておられる。10月の避難訓練時には、消防署より、「気候や季節等、いろいろな状況を考えての訓練が必要。」とアドバイスがあった。5月に実施する避難訓練時には、消防署のアドバイスに沿った訓練を行うことを予定されている。備蓄は缶詰、おかし、飲料水等、2日分程度を確保されている。生活用水については、スプリンクラーのタンクの水を利用することもできるようになっている。	今後は、利用者の状態等も踏まえて、いろいろな災害の場面を想定して避難訓練を繰り返し行っていかれることが望まれる。地域とのネットワーク作り等もすすめながら、地域と協力し合えるような体制を作っていかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報、外部に漏れることがないように厳重に保管している。また職員には、個人情報流出や言葉の虐待が無いように周知している。 (外部評価) 管理者は利用者のできることは、時間がかかっても見守ることや、介助が必要なことについては、「してあげて」ではなく、「させてもらっている」という気持ちで支援してほしいと職員に話しておられる。ご家族からの希望もあり、選挙の際には、職員が期日前投票にお連れして、利用者はご自分で投票できたことで満足感を得て、生活への自信にもつながったようだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定が可能な利用者については、本人の思いや希望に沿ったケアをするよう心がけている。自己決定が困難な利用者については、ご家族様と相談したり、利用者本人の表情等から気持ちを理解し、支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者が各自のペースでゆったりとした時間が過ごせるような環境・雰囲気作りを心がけている。また、利用者が孤立する事のないように、声掛けや見守りを行なっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 送迎付きの理容室を利用したり、昔から馴染みのある美容室に職員がお連れしたりしています。またそうした希望がない利用者様には、職員が染髪や散髪して、いつもその方らしい身だしなみになるように心がけています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と職員と一緒に野菜の下ごしらえや簡単な料理の準備をしている。また、食事の準備などもして下さる利用者もいます。下膳などは無理のない程度で行なっていただけてます。 (外部評価) 地域の方からいただいた野菜や事業所の畑で収穫した野菜等を採り入れながら食事を手作りされている。法人代表の自家菜園で育てた野菜を使って、時々おかずの差し入れがあり、調査訪問時にも大根と鶏肉の煮物が食卓に上っていた。利用者によっては、ご自宅で使っていたお気に入りの食器を使用している方もいる。調査訪問時には、利用者がネギの仕分けをしている様子が看られた。お誕生会には仕出し弁当を外注し、ご家族もお誘いして、一緒にお祝いされている。外食することが難しい利用者もあることから、統括部長は、「外食気分も味わえ気分転換になったのではないか」「ご家族に食事の様子を知っていただく良い機会にもなっている。」と話しておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者野身体状況に応じた食事形態で食事を提供している。栄養バランスや水分量を気をつけなければいけない利用者に記録をつけ、栄養不足・水分不足にならないよう注意している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 見守りにてほぼ口腔ケアはできている。出来ているかは、日誌に記録している。不潔行為の強い方は、出来るだけ声掛けにて支援しているが、強い拒否感にて出来ないこともある。毎週火曜日には、義歯をつけ置き消毒しています。歯科の往診や連携歯科の協力の下に口腔ケアや歯の治療に力を入れている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄のパターンを知るために、排便記録表を新たに作り直した。ケアチームによる支援も排泄の自立に向けて、少しずつではあるが、良くなっている利用者もいる。	
			(外部評価) ご自分でトイレで排泄する利用者も、衛生面や衣服を整えること等でサポートが必要な場合もあり、職員は利用者がトイレを使用するのを見計らい、見守り、必要時のみサポートするよう支援されている。又、トイレ誘導やトイレ使用後の衣類の確認等で紙パンツやパッドの使用量を減らせるよう取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便記録表や服薬表、水分チェック表などから、毎朝の朝礼と夕方の申し送りにて、職員に排便情報をきちんと掴んでもらうようにしている。飲食物の工夫や散歩などの働きかけは、職員が進んで行ってくれる。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 特に気をつけているのが、不潔行為が見られる利用者には、利用者本人のペースを大事にして、言葉掛けなどで出来るだけご自身からしていただくように支援している。	
			(外部評価) 午後から入浴時間となっている。入浴に気が乗らない利用者には、歯磨きや手洗い時を捉えて脱衣所へお誘いしたり、様子を見ながらお好きな時間に入浴できるよう支援されている。午前中の一番風呂で、お好きな湯温に調節して入る方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者本人の判断や希望に応じて、休息していただいている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋は、ファイルにして、職員が見られるようにしている。変更時は、朝礼や申し送りにて伝え、申し送りノートなどにも記載して、職員に周知してもらっている。症状の変化が見られた場合は、迅速に対応できるように協力医や薬剤師との連携を図っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 囲碁、貼絵、絵画、編み物などを自由に楽しんでいる利用者様もおられる。出来るだけみんなで楽しめるゲームやレクレーションを支援している。食べるのが大好きな利用者が多いので、おやつ作りなど工夫を凝らしてくれる職員がいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 職員も増えてきて、外食や喫茶店に出掛けることが多くなった。おやつ作りにも工夫を凝らしてくれる職員がいる。 (外部評価) うどんを食べに行ったり、喫茶店でおやつを楽しむ機会を毎月、作っておられる。地域にあるお店を利用することも多い。利用者はそれぞれお好きなメニューを選び楽しめるようだ。その他にも職員は、地元商店街の夜市や盆踊り、桜の花見や緑化センターの催しにもお連れしたいと話しておられた。	外出のお好きな利用者も多いことから、今後は利用者の希望する時に個別に出かけるような機会も作ってみてはどうか。又、介護度が重度の利用者については、「今だからできること」はないか、ご家族等も含めて話し合い、支援につなげていかれてはどうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出時にはご本人で支払っていただきますが、施設内では事務所の金庫にて保管しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者本人が電話などを使いやすいように、声がけなどを行っている。希望時には、自由に電話を使ってもらっています。また手紙や荷物のやり取りもご本人にお任せしています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) よく散歩に出掛けるので、季節の花々を摘んでこられたり、職員が持参してくれりと、季節の花々を飾ることにしている。季節の果実が飾れる時は、香りも楽しんでいただきたいので、職員が率先して飾ってくれています。</p> <p>(外部評価) 敷地内の畑には、利用者が収穫しやすい野菜を栽培しておられ、みんなで収穫を楽しまれている。玄関前には、法人代表者が丹精込め手入れされた梅が満開となっていた。事業所の玄関や居間には、散歩で摘んだ花を利用者が活かしておられたり、職員が畑に咲く水仙等を活かしておられ、居間の一角には、七段飾りのお雛様を飾っておられた。壁面には行事や外食時の写真を飾っておられ、利用者が「これは弟と撮った写真よ。よく来てくれるのよ。」と笑顔で話して下さった。利用者が描いた水彩画も展示されていた。居間では、利用者同士が会話をしながらテレビをみたり、伊予弁かたで楽しまれており、ラジオ体操や風船バレーをして体を動かす時間も設けておられる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングやダイニングはもちろん、2階の利用者が1階で過ごされたりと自由に出来るように、見守り・支援している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 好きなモノや馴染みのものなどを自由に飾っていただいている。クッションや座布団なども過ごしやすいように、利用者本人が工夫されている方もおられる。</p> <p>(外部評価) 絵を描くのが好きな利用者は、居室にテーブルを置いてパレットや絵の具、絵筆等の道具を揃えておられ、いつでも描くことができるようにしておられた。仏壇を持ち込み、日々念仏を唱えて心落ち着く時間を過ごす方もおられる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) トイレや部屋には、名札や札を貼り、分かりやすくしている。センサーマットやクッションフロアなども必要に応じて使っている。</p>	